

茨城の 土地改良

発行所

茨城県土地改良事業団体連合会

水戸市宮内町3193-3

電話 029-225-5651(代)

FAX 029-225-5239

編集兼発行人

山口 武 平



「豊作の輝き」(撮影場所/下妻市) 第13回 農業農村フォトコンテスト入賞作品

主 な 目 次

第32回全国土地改良大会が島根県で開催	2
平成22年度農林水産予算概算要求の骨子	3
「農業農村シンポジウム2009」の開催	4
「水と土と農キャンペーン」の実施	5
農業基盤整備資金の金利改定について	5
平成21年度農地・水・環境保全向上対策 関東農政局管内活動組織事例発表会開催について ...	6
水土里ネット探訪 Vol.16 (玉造南部土地改良区、本新土地改良区、西総土地改良区)	7

第32回全国土地改良大会が島根県で開催

第32回全国土地改良大会・島根大会が、去る10月28日（水）午前10時から島根県松江市のくにびきメッセにおいて、全国水土里ネット、水土里ネット島根の主催により、大会テーマ「国引きのロマン、水・土・里の想い。神話の郷から今、未来へ。」の下、全国から土地改良関係者約3,500名が参集し開催されました。後援は農林水産省、島根県、松江市。

今大会は、「食料の安定供給」や「食の安全・安心」が大きな関心事になっている昨今、農業生産を支える農地や農業用水路などを維持・保全・整備する農業農村整備の重要性を広く国民にアピールするとともに、土地改良法制定60年という節目の年に、今一度、「水・土・里」の想いを再認識し、共生・循環・持続する国のかたちづくり、地域づくりについて語り合うことを目的とし開催されました。

式典では、開催県挨拶として水土里ネット島根の青木幹雄会長が、「先人が築いた農村環境を良好な状態で次世代に継承するため、農地、水保全に全力を挙げている。こうした土地改良事業を継続し、『水土里』の思いをつなげていきたい」と挨拶しました。また、主催者挨拶として全国水土里ネット野中広務会長が、食料自給率の向上と農村基盤整備は密接につながっていると「農業水利施設の更新を確実にして農村を活性化させ、持続可能な国土を保全させる必要がある」と述べられました。

引き続き、土地改良事業功績者表彰の発表及び表彰式が行われた。今回は農林水産大臣賞が6名、農林水産省農村振興局長賞が16名、全土連会長賞が47名の計69名が受賞しました。本県からは、河間土地改良区理事長谷中清彦氏が全国土地改良事業団体連合会表彰を受賞しました。



次期開催県については、平成22年10月長崎県において開催されることが発表され、島根県より長崎県に大会旗の引き継ぎが行われました。水土里ネット長崎の宮本正則会長の挨拶と共に、大会スローガン「伝えよう 水の音色 土の温もり 里の安らぎ 西端の風にのせて。」が紹介されました。

最後に、全国水土里ネットの吹田副会長より閉会の挨拶として、次期長崎大会の成功を祈念して、併せて本大会が無事盛会裡に終了した御礼・感謝のことばで結びました。

【大会宣言】

豊かな自然が織りなし、人と自然が調和した鮮やかな我が国の四季は、古来より様々な恵みを人々にもたらしてきました。

温帯地域に位置し四方を海に囲まれたモンスーン気候の国土では、太陽をエネルギーとして、豊富な水資源を山から里へ、里から川へ、川から海へ、そしてまた海から山へ、循環させています。降った雨や雪は、時には災害をもたらすものの、国民生活や農業になくてはならない台地の恵みとして、世界にも誇るべき貴重な国土資源であり、永年に亘り人々は細やかに人の手を加え自然に働きかけながら、水田稲作を中心とした持続可能な循環型国土を形づくってきました。

20世紀の経済成長は我が国の国民生活を物質的に豊かなものにしましたが、21世紀に入り、グローバルな経済成長と人口爆発は、地球単位での「エネルギー」と「環境」について重要な問題を提起しつつあります。我が国は本来は豊富な水資源やバイオマス資源などを有する国土でありながら、現在、食料自給率は先進諸国の中でも極めて低く、農地や再生可能エネルギーも必ずしも十分に利用されているとは言えません。近年の国際的な貿易自由化の流れや農産物価格の低迷、担い手や後継者の不足などにより、将来にわたり最大限活用していくべき農地や農業水利システムが、更新時期を迎え、国土全体で存続の危機に瀕しています。

我が国は人口減少社会を前にして、「食料」「水」「エネルギー」を持続的に供給してきた里地・里山のシステムを、未来に持続可能なものとして「誰が担い、どう維持していくのか」が問われています。

水田の汎用化と農業水利システムの保全による水田農業の再生と主要穀物の安定供給により、早急に我が国の食料自給率を高めるとともに、国土保全、水源かん養、水質浄化など多面的機能を有する農村地域の活性化により、持続可能な国土を再生していく取組が今、求められています。

神在月の今日ここに集う関係者は、健全な「水」

「土」「里」を守ることにより、「食料」「水」「エネルギー」の資源供給を担うばかりでなく、「国土」を保全する重要な責務をも担う者として、国民の負託と信頼に一致団結して応えていくことを日本の黎明の歴史を今に伝えるここ島根の地において高らかに宣言いたします。

平成21年10月28日

第32回全国土地改良大会 島根大会

I. 平成22年度 農林水産予算概算要求の骨子

1. 総括表

区 分	21年度 予算額	22年度 要求額	対前年度比
農林水産予算総額	億円 25,605	億円 24,071	% 94.0%
1. 公共事業費	9,952	8,459	85.0%
一般公共事業費	9,760	8,267	84.7%
災害復旧等事業費	193	193	100.0%
2. 非公共事業費	15,653	15,612	99.7%
一般事業費	6,993	6,822	97.5%
食料安定供給関係費	8,659	8,790	101.5%
[うち 戸別所得補償制度関連事業]	0	2,171	皆増
別に 戸別所得補償制度モデル事業	0	3,447	皆増

[平成21年度第一次補正予算における基金事業の執行
停止による平成22年度所要額]

199

(注) 1. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
2. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

「農業農村シンポジウム 2009」の開催 ～私たちの食を支える農業農村～

去る11月12日(木)午後1時からひたちなか市文化会館大ホールにおいて茨城県・水土里ネット茨城・茨城県農村振興技術連盟の主催により「農業農村シンポジウム 2009」が開催され、一般の参加者や土地改良区役職員、市町村農政担当職員等約800名が参集しました。

このシンポジウムは今年で13回目の開催となり、今年のテーマは、～私たちの食を支える農業農村～。

昨今の農業農村をめぐる情勢は、食品の安全性による様々な問題、食料自給率の低下、また、農業従事者の高齢化や担い手の減少、耕作放棄地の増大など、様々な課題に直面しています。

このような状況を踏まえ、競争力のある強い産地づくりを進め、安心安全な農作物を安定的に供給するために、私たちの食を支えている農業や、その基盤づくりに不可欠な農業農村整備事業の重要性について、県民の理解を深めることを目的に開催されたものです。

角田副知事、水土里ネット茨城小嶋専務理事による主催者挨拶の後、土地改良功労者表彰に入り、水府南部土地改良区理事長の平根敏行氏、桂土地改良区理事長の小林輝男氏、牛久沼土地改良区理事長木村信夫氏、大山沼土地改良区理事長秋庭克之氏の4名が茨城県知事表彰を受賞しました。

また、「農地・水・環境保全向上対策」や「中山間地域等直接支払制度」に取り組む優良な活動組織と集落を表彰する第2回茨城県美しい水土里づくり優良活動表彰においては、最優秀賞(茨城県知事賞)に水戸市の「川又地域資源保全向上活動組織」(農地・水・環境保全向上対策部門)と、北茨城市の小板谷集落(中山間地域等直接支払制度部門)が、さらに特別賞(県土地改良連合会長賞)には龍ヶ崎市の長戸北部資源保全向上活動組織(農地・水・環境保全向上対策部門)と特別賞(全国山村振興技術連盟茨城県支部長賞)には、町付後沢集落(中山間地域等直接支払制度部門)が表彰されました。さらに優秀賞は右記の通り。

続いて、「豊かな食生活は元気な農業農村から」と題して、(有)「青空市場」の代表取締役で俳優の永島敏行氏による基調講演が行われ、俳優で活躍されている一方、自らも農業に取り組んでおり、

その実体験に基づく話やまた、生産者と消費者の交流の場である「青空市場」を永島氏ご自身が主宰として実施している中での様々な活動内容について、講演しました。

続いて、活動事例の発表においては、龍ヶ崎市の長戸北部営農組合の北澤勉氏に「基盤整備を契機とした地域ブランドづくり」と題し、営農組合と立ち上げた当時から現在までの様々な活動状況についての発表がありました。



○優秀賞(茨城県農林水産部長賞)

《農地・水・環境保全向上対策部門》

- 石滝清流会(高萩市)
- 上坪地区・ふるさと資源保全活動組織(城里町)
- 手賀・資源を守る会(行方市)
- 百家地域資源保全向上活動組織(つくば市)
- 飯島地区農村保全協議会(筑西市)
- 岩井北部地区資源保全委員会(坂東市)

《中山間地域等直接支払制度部門》

- 下大門Ⅱ集落(常陸太田市)
- 大荷田集落(高萩市)
- 袋木屋実賀集落(常陸大宮市)
- 小坂上集落(城里町)
- 本戸南指原集落(笠間市)
- 本戸金谷集落(笠間市)

「水と土と農キャンペーン」の実施 「いばらき森林の感謝祭」に出展参加

去る10月24日(土)、「いばらき森林の感謝祭」が、水戸市の茨城県三の丸庁舎広場を会場に開催され、本会(水土里ネット茨城)では第12回を数える「水と土と農キャンペーン」として昨年度に引き続き出展、農業農村整備事業について広く来場者にPRしました。

この「いばらき森林の感謝祭」は、昨年4月から森林湖沼環境税が導入され、本県においても県北地域や筑波山周辺の森林、平地林・里山などの身近な緑、霞ヶ浦をはじめとする湖沼・河川など、豊かな自然環境を守ると共に、森林の持つ公益的機能に対する理解を深め、「県民全体で森林を守り育てていこう」という気運の醸成を図るため開催されたものです。



地球温暖化が世界的な環境問題となっているなか、森林は林産物の供給のみならず、県土の保全や水資源のかん養など公益的機能を有していること等、農業農村のもつ多面的機能について広く県民に発信している本会としても、併せ持つ共通性を強く認識し後援団体として参画、出展ブースを確保しました。

農業農村整備事業のクイズ、パネル展による農業生産上の役割や水田のもつ多面的な役割の紹介、土地改良区の役割や農業集落排水への接続率向上等の周知を図り、クイズの参加者へは、「ミドリ(水土里)ン」メモ帳をプレゼント。用意された400個が正午すぎまでには配り切れてしまうほどの大盛況でした。



農業基盤整備資金の金利改定について

(株)日本政策金融公庫(旧農林漁業金融公庫)が貸し出す農業基盤整備資金の貸付金利が、平成21年11月20日以降下記のとおり改定されました。

記

(単位: %)

区 分	改 定 前 (H21.10.22)					改 定 後 (H21.11.20)				
	融資期間にかかわらず	融資期間別 (一例)				融資期間にかかわらず	融資期間別 (一例)			
		5年	10年	15年	20年		5年	10年	15年	20年
都道府県営補助残	1.75	—	—	—	—	<u>1.85</u>	—	—	—	—
団体営補助残	1.60	—	—	—	—	<u>1.70</u>	—	—	—	—
非 補 助	1.60	—	—	—	—	<u>1.70</u>	—	—	—	—
災 害 復 旧	—	0.90	1.05	1.45	1.60	—	<u>0.95</u>	<u>1.15</u>	<u>1.55</u>	<u>1.70</u>

平成21年度 農地・水・環境保全向上対策 関東農政局管内活動組織事例発表会開催について

去る11月10日(水)に関東農政局管内の農地・水・環境保全対策活動優良実施地区による活動事例の発表会が埼玉県のさいたま市文化センターにて行われ、本県よりは平成20年度に第1回茨城県美しい水土里づくり優良活動表彰 農地・水・環境保全向上対策部門 特別賞(茨城県土地改良事業団体連合会長賞)を受賞した「鹿島湖岸北部資源を守る会」が発表を行いました。

当日は、基調講演として農林水産省農村振興局農地・水・環境保全向上対策室長の池田泰雄氏が基調講演を行い、同政策の実施前と後の成果の比較についてアンケート調査に基づいての結果報告や同政策で会計検査院の指摘を受けている内容等の話がありました。

その後、東京都を除く9県による各県1地区ず

つの事例発表が行われ、「鹿島湖岸北部資源を守る会」では各県のトップバッターとして登壇し、組織の概要を山野市郎鹿島湖岸北部土地改良区理事長が、活動状況の発表を齊藤幸子事務局員が行い、農業施設の修繕補修、環境保全活動を外注に頼らず活動構成員のみで実施をし、地域環境、農業施設に対する地域住民の意識が高まった事や、制度実施後の農業用排水路や農道の機能修復された状況など農地・水・環境保全対策の本質を感じさせる内容をスライドで説明を行いました。その活動内容のわかりやすい発表には会場から満場の拍手が送られました。なお、パワーポイントによるスライド操作は鹿行農林事務所の明石主事が担当しました。



○ 事例発表地区一覧

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1) 鹿島湖岸北部資源を守る会 (茨城県) | 6) 宮原地域保全活動組織 (神奈川県) |
| 2) 逆面・エコアグリの里 (栃木県) | 7) 有里保全委員会 (山梨県) |
| 3) 谷地沼グリーンクラブ (群馬県) | 8) 東春近の農地・水・環境を守る会 (長野県) |
| 4) 小和瀬農村環境保全協議会 (埼玉県) | 9) 浮島地区環境保全推進会 (静岡県) |
| 5) 関宿水環境保全会 (千葉県) | |



◆ 玉造南部土地改良区



理事長 村松 建一

所在地：行方市玉造甲429番地の1 TEL 0299-55-1475

E-mail : tamatochikyo@bz01.plala.or.jp

受益面積：302.2ha

受益地：行方市

組合員数：591名

理事：16名

総代：37名

監事：4名

職員：1名

本土地改良区は、茨城県行方市の北西部、霞ヶ浦沿岸に位置し、県営ほ場整備事業 手賀・玉川地区で整備されました。改良区内を国道355号線が縦断し、霞ヶ浦側が低位部、谷津田側が高位部に分れています。低位部には高圧用排水機場2ヶ所、排水機が設置され機械排水をしています。用水は霞ヶ浦より高圧用排水機場2ヶ所、谷津田は上流の溜池から落水して低圧機場5ヶ所、深井戸3ヶ所で全地域をパイプライン方式で灌漑し、



手賀・玉川地区ほ場



第1用排水機場

合理的な水管理を行っています。

維持管理については、各施設の老朽化等が進み補助事業を取り入れ、施設維持管理適正化事業等で対応しております。又営農状況においては水田地帯なので、機械の大型化、担い手の経営面積の拡大、生産調整での転作等を行っています。

平成17年ごろ21世紀創造運動を取り組み、土地改良区の役割・愛称をPRし、イベントとして次世代を担う小学生を対象に「田んぼの調査隊」で、農業体験（田植えから稲刈りまで）・生き物調査・水質検査・農用地及び施設の果たす役割を理解してもらうことを、子供達が、親に話す事で地域全体で取り組まなくてはならないと地域に波及、浸透していくように取組んだ結果、地域の資

源を、行政区一体となり、道水路の草刈、クリーン作戦を実施しています。

平成19年に21世紀土地改良区創造運動で「さなえ賞」を受賞、現在、農地・水・環境保全向上対策事業とともに実施、本年度11月に手賀・資源を守る会が、農林水産部長賞を受賞いたしました。



田んぼの調査隊



地域住民の草刈り

◆ 本新土地改良区



理事長 石橋 将男

所在地：稲敷市浮島字妙岐8532 TEL 0299-78-3050

受益面積：431.0ha

受益地：稲敷市

組合員数：500名

理事：13名

総代：40名

監事：3名

職員：2名



改良区施設見学会

本地区は、昭和21年緊急開拓事業として採択され、昭和23年茨城県代行干拓事業となり昭和31年度に造成された霞ヶ浦湖面干拓地域です。

地区は霞ヶ浦の東南端新利根川河口の稲敷市（旧東町桜川村）の地先に位置し平均地盤高は、YPマイナス1.5mで霞ヶ浦の平水位（YP1.0m）よりかなり低い干拓地です。霞ヶ浦に面し、外堤防5.2kmを築き外水を遮断するほか背後地の界に内堤防4.8kmを築造し地区外水の流入を防いでおります。外堤は霞ヶ浦の洪水に備え、YP4.9mに築堤、内堤は降雨による既成田の湛水のみであるからYP2.15mに築堤し道路と兼用しております。

本地区は地区外に流域を持たず、地区内は霞ヶ浦よりYP マイナス 1.5m と低い位置にあるため自然排水が出来ず霞ヶ浦に常時機械排水を行っております。



本新排水機場

土地改良区の今後の課題

本土地改良区では、平成 10 年度より県営土地改良総合整備事業で用排水路の整備を行っており、用水供給及び排水については十分な効果が得られてきていますが、本地区は霞ヶ浦の水位よりも低い土地である為、排水機場が非常に重要な施設となっております。その為、今後は排水機場の維持管理を如何に行っていくかが重要となっております。現在の排水機場が完成してから 18 年が経ち、施設も老朽化してきていますので、対策として基幹水利施設ストックマネジメント事業で分解整備を行う予定となっております。



生き物調査

土地改良区の活動

本土地改良区では、地域との親交を図る活動として内堤用水路の川干しをして生き物調査を行ったり、小学生への施設見学会を行ったりしております。

また、小学生による吐出水槽への壁画作成や、小学校への桜の植樹及び地区内住民に芝桜や紫陽花を配布し用水路沿いに植えていただく等、景観向上に努めております。

このように本土地改良区では様々な活動を行ってきましたが、今後も継続的に活動を行っていく事が課題です。



壁画完成式



小学校桜植樹

◆西総土地改良区



理事長 吉岡 久男

所在地：茨城県猿島郡境町大字若林5046番地2 TEL 0280-87-7693

E-Mail : midorinet-seisou@view.ocn.ne.jp

受益面積：364ha（水田 225ha、畑 139ha）

受益地：坂東市、境町

組合員数：710名

理事：20名

総代：45名

監事：4名

職員：3名（他に季節雇用職員 4名）

土地改良区の概要

当土地改良区は茨城県南西部の利根川左岸にあり、坂東市と境町に跨る平坦でほぼ長方形の田畑が交錯した地域である。

従来、用水は上流の一の谷沼からの流出水に依存し、排水は下流の鶴戸沼土地改良区が管理する長谷閘門より利根川に自然排水されていたが、自然ゆえにたびたび干害と水害に見舞われていた。さらに、用水源であった一の谷沼の干拓事業が昭和33年に完成したことから水源を失った百戸・森戸南部・兎谷津・浅間下・松下の5改良区が協議し、地区を一貫した計画のもと事業を実施し近代農業に対応するべく、昭和40年に合併し西総土地改良区となった。

待望の圃場整備事業は、昭和46年県営として採択を受け、12年の歳月をかけた難工事の結果、基盤が整備された360ヘクタール余の田畑や道水路・かんがい施設が完成した。以来、稲作ばかりではなく、首都圏近郊の地の利を生かした夏ネギ・レタスをはじめとした生鮮野菜の一大生産地として農地の高度利用が図られ、また役職員が一致協力して施設や農地の管理に取り組み、適正な運営が図られている。

最近の状況

圃場整備事業後、隣接改良区と連携した水質障害や湛水防除事業、農道整備事業等を実施してきたが、現在は維持管理が主体の土地改良区であり、適正化事業や県単事業を積極的に取り入れ、施設の適正管理に努めている。その1例が田園空間整備事業であり当改良区の貯水池で他目的な利用をも図っている「兎谷津池」の護岸や環境整備が行われ、地域住民の憩いの場となっている。

また、平成19年度からスタートした「農地・水・環境保全向上対策事業」により地区内に2つの活動組織が発足し、組合員ばかりでなく地域住民や



兎谷津池

学校・PTA、消防団の方たちが参加して、草刈・ゴミ拾い・花壇への植栽・生き物調査等の活動を展開している。これらの活動により、農業施設や環境に対する住民の関心が高まり、多くの方の参加をいただいている。

こうした取り組みが評価され、昨年第1回美しい水土里づくり優良活動表彰において「森戸南部地域資源保全協議会」が優秀賞を受賞した。



農道沿いに設置された花壇